BEWO□ル

300123

BeWo□胞は、男性胎盤の悪性妊娠性絨毛癌由来の □胞株であり、胎盤を研究するための in vitroモデルとして広く用いられている。
胎盤発生過程におけるヒト絨毛 □胞合胞化期における□胞間融合は、最も重要でありながら最も理解されていない出来事の一つである。胎盤におけるこのプロセスを in vivoで研究することは困難であるため、BeWo□胞が胎盤絨毛絨毛のin vivoでの合胞化をシミュレートする □胞培養モデルとして利用されている。
これらの □胞は上皮様表現型を示し、接着性がある。 BeWo□胞のb30サブクローンは、透過性膜上で密に増殖するため、栄養の取り込みと輸送の研究に特に有用である。
CK 7とE-カドヘリンは、BeWo□胞が発現する分子マーカーである。 VE-カドヘリンはBeWo□胞で認められ、フォルスコリンで処理すると増強される。この □胞はケラチンも発現し、G6PD ′ Bアイソザイムも陽性である。 BeWo□胞の核型は様式数=86で、71から178の範囲にあり、幹□胞数は4倍体である。
核型は幹□胞数の範囲内で比較的安定している。 BeWo□胞は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（hCG）、ヒト絨毛性ソマトマンモトロピン（胎盤性ラクトゲン）、エストロン、エストリオール、エストラジオールなどのステロイドホルモンなど、様々なホルモンを分泌する。
しかし、BeWo□胞から分泌されるβ-hCGとエストラジオールのレベルは、 JEG-3などの他の絨毛がん由来□胞株から分泌されるレベルよりも低い。フォルスコリン処理により、BeWo□胞におけるβ-hCGの分泌は、他の絨毛がん由来□胞株で観察されるのと同様のレベルまで増加した。さらに、フォルスコリン処理により、 BeWo□胞から分泌されるプロゲステロンレベルも上昇する。
要約すると、BeWo□胞は胎盤の発生とヒト絨毛の合胞化過程を研究するための in vitroモデルとして広く用いられている。 BeWo□胞は上皮様表現型を示し、様々な分子マーカーを発現し、hCG、胎盤ラクトゲン、ステロイドホルモンなど複数のホルモンを分泌する。全体として、BeWo□胞は胎盤発生に関与する複雑なプロセスを研究するための貴重なツールである。

概要

□明

BeWo□胞は、男性胎盤の悪性妊娠性絨毛癌由来の □胞株であり、胎盤を研究するための in vitroモデルとして広く用いられている。
胎盤発生過程におけるヒト絨毛 □胞合胞化期における□胞間融合は、最も重要でありながら最も理解されていない出来事の一つである。胎盤におけるこのプロセスを in vivoで研究することは困難であるため、BeWo□胞が胎盤絨毛絨毛のin vivoでの合胞化をシミュレートする □胞培養モデルとして利用されている。
これらの □胞は上皮様表現型を示し、接着性がある。 BeWo□胞のb30サブクローンは、透過性膜上で密に増殖するため、栄養の取り込みと輸送の研究に特に有用である。
CK 7とE-カドヘリンは、BeWo□胞が発現する分子マーカーである。 VE-カドヘリンはBeWo□胞で認められ、フォルスコリンで処理すると増強される。この □胞はケラチンも発現し、G6PD ′ Bアイソザイムも陽性である。 BeWo□胞の核型は様式数=86で、71から178の範囲にあり、幹□胞数は4倍体である。
核型は幹□胞数の範囲内で比較的安定している。 BeWo□胞は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（hCG）、ヒト絨毛性ソマトマンモトロピン（胎盤性ラクトゲン）、エストロン、エストリオール、エストラジオールなどのステロイドホルモンなど、様々なホルモンを分泌する。
しかし、BeWo□胞から分泌されるβ-hCGとエストラジオールのレベルは、 JEG-3などの他の絨毛がん由来□胞株から分泌されるレベルよりも低い。フォルスコリン処理により、BeWo□胞におけるβ-hCGの分泌は、他の絨毛がん由来□胞株で観察されるのと同様のレベルまで増加した。さらに、フォルスコリン処理により、 BeWo□胞から分泌されるプロゲステロンレベルも上昇する。
要約すると、BeWo□胞は胎盤の発生とヒト絨毛の合胞化過程を研究するための in vitroモデルとして広く用いられている。 BeWo□胞は上皮様表現型を示し、様々な分子マーカーを発現し、hCG、胎盤ラクトゲン、ステロイドホルモンなど複数のホルモンを分泌する。全体として、BeWo□胞は胎盤発生に関与する複雑なプロセスを研究するための貴重なツールである。

ティッシュ	プラセンタ
病気	絨毛がん
転移部位	脳

同義語

- BeWo
- Be Wo
- Be-Wo

分類

生物	人間
セックス	男性
成長特性	アドヘレント
バイオセーフティレベル	1

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB

特徴

形態学	上皮様

識別子

引用

BEWO（サイシオン カタログ番号 300123）

NCBI 納税者番号	9606
セロサウルス	CVCL_0044

発現と感受性

アイソザイム

G6PD，B

ウイルス感受性

ポリオウイルス3、水疱性口内炎（インディアナ州）

逆転写酵素	ネガティブ

製品

プロゲステロン、ヒト絨毛性ソマトマンモトロピン（胎盤性ラクトゲン）、エストロゲン、エストロン、エストリオール、エストラジオール、ケラチン

取り扱いと飼育

培地

ハムF12K培地、w：2.0 mM L-グルタミン、w：2.0 mM ピルビン酸ナトリウム、w：2.5 g/L NaHCO3（Cytion article number 820608a）

培養雰囲気	37°C，5%CO2、加湿雰囲気。

サプリメント

培地に10% FBSを加える

解離試薬	アキュターゼ

継代培養

接着した□胞から古いメデュームを取り除き、カルシウムとマグネシウ ムを除いたPBSで洗浄する。T25フラスコでは3-5ml，T75フラスコでは5-10mlのPBSを使用する。次に、T25フラスコでは1-2ml，T75フラスコでは2.5mlのアキュターゼで□胞を完全に覆う。室温で8-10分間インキュベートし、□胞を剥離させる。インキュベーション後、□胞を10mlの培地と静かに混合して再懸濁し、300xgで3分間遠心する。上清を捨て、□胞を新しいメデュームに懸濁し、新しいメデュームの入った新しいフラスコに移す。

播種密度	1×10^4□胞/cm^2の播種密度が推奨される。
流体の更新	週2～3回
解凍後の回復	解凍後、□胞を5×10^4□胞/cm^2で播種し、凍結処理からの回復と接着を少なくとも 24時間以上行う。

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB

解凍と培養

Confirm that the vial remains deeply frozen upon delivery, as cells are shipped on dry ice to maintain optimal temperatures during transit.
Upon receipt, either store the cryovial immediately at temperatures below -150°C to ensure the preservation of cellular integrity, or proceed to step 3 if immediate culturing is required.
For immediate culturing, swiftly thaw the vial by immersing it in a 37°C water bath with clean water and an antimicrobial agent, agitating gently for 40-60 seconds until a small ice clump remains.
Perform all subsequent steps under sterile conditions in a flow hood, disinfecting the cryovial with 70% ethanol before opening.
Carefully open the disinfected vial and transfer the cell suspension into a 15 ml centrifuge tube containing 8 ml of room-temperature culture medium, mixing gently.
Centrifuge the mixture at 300 x g for 3 minutes to separate the cells and carefully discard the supernatant containing residual freezing medium.
Gently resuspend the cell pellet in 10 ml of fresh culture medium. For adherent cells, divide the suspension between two T25 culture flasks; for suspension cultures, transfer all the medium into one T25 flask to promote effective cell interaction and growth.
Adhere to established subculture protocols for continued growth and maintenance of the cell line, ensuring reliable experimental outcomes.

品質管理と凍結保存

無菌性

マイコプラズマ汚染は、PCRベースのアッセイと発光ベースのマイコプラズマ検出法の両方を用いて除外される。
□菌、真菌、酵母のコンタミネーションがないことを確認するため、 □胞培養物は毎日目視検査が行われる。

凍結培地	凍結保存培地としては、融解後の生存率を十分に高めるために完全増殖培地（ FBSを含む）＋10%DMSO、または回復を促進し凍結によるストレスを軽減するために最適化された浸透保護剤と代謝安定剤を含む CM-1（Cytionカタログ番号800100）を使用している。

保管条件

長期保存の場合、バイアルを-150~-196℃の気相液体窒素に入れる。80℃での保存は、液体窒素に移す前の短い暫定措置としてのみ許容される。

配送条件

凍結保存された□胞株は、輸送中約-78℃を維持するのに十分な保冷剤とともに、有効な断熱包装でドライアイスとともに輸送される。受領後、直ちに容器を検査し、遅滞なくバイアルを適切な保管場所に移してください。

寄付者

ドナーの年齢	胎児

法務・安全

安全上の注意事項

将来の融解のためにクライオバイアルを液体窒素に保存する場合、厳格な安全対策を遵守することが必須である。適切な保護手袋と保護衣は不可欠であり、液体窒素タンクへの凍結サンプルの移動中または液体窒素タンクからの凍結サンプルの移動中には、フェイスマスクまたは安全ゴーグルの使用が義務付けられている。これは、凍結試料を取り出す際に、凍結試料が爆発し、鋭利な破片が飛び散って怪我をするリスクを軽減するためである。

保証

サイシオンは、製品の品質と生存率を保証します。
当社では、培養を開始した時点で、当社施設からの出荷後 60日間、□胞が生存可能であることを保証しています。
すべての材料が、分析証明書および／または製品シートに記載された仕様に適合していることを保証します。
詳□については、<a href=""/Who-we-are/Warranty/"" hreflang=""x-default"">Warranty Statement をご参照ください。

物質移転契約書の締結が必要	Yes

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB